

2025年度松本秀峰中等教育学校評議員会 兼 学校評価委員会議事録

松本秀峰中等教育学校

【開催概要】

日 時 2025年9月5日(金) 15:00-16:30

場 所 常念棟 会議室

参加者 学校評議員6名 学校教職員6名(校長、教頭2名、事務長、事務職2名)

欠 席 学校評議員1名

【議題】

1. 活動報告
2. 第3期中期計画に向けて(目指す方向)
3. 2024年度保護者アンケートについて
4. 質疑・意見・情報交換
5. まとめと今後の課題

1. 活動報告

資料に基づき、「学事・教務」「進路指導」「生徒募集」「地域発信(自主活動・秀峰祭)」「財務・運営関係」の5つ区分の昨年度の取組事例を中心に解説し、課題について提示した。

■学事・教務

- ・DXの推進の状況報告
- ・習熟度別3クラス編成の一層促進(英語3クラス/数学4クラス編成。今後国語も実施)。
- ・放課後講座、夏期講習の充実のための再編と冬期講習の計画
- ・夏季休業期間の生徒活動活発化と校舎解放
- ・教職員研修の強化と、校内組織体系の再確認、報告・連絡の効率化

■進路指導

- ・模試結果による学力推移のデータ分析の活用
- ・進路面談やノウハウの共有による進路指導の継続(教員の指導力強化も継続)
- ・学校推薦入試、特殊な入試への指導・面接対策の組織的強化(チーム対応)
- ・正課外講習(夏期講習)の再編
- ・放課後の学習室開放(19時まで)
- ・現役進学実績の推移と進学者数による学校全体の目標設定の再編

■生徒募集

- ・学校説明会の開催状況
- ・学校ホームページでの活動紹介について
- ・2025 年度入試の結果と初開催の首都圏入試結果について
- ・小学校訪問・塾訪問(中南信・東北信)の状況とエリア拡大について
- ・長野県内の少子化人口減に伴う入志願倍率の推移
- ・2026 年度一般入試の会場追加(本校会場の他長野会場を追加)
- ・2026 年度特待生入試の会場(本校会場と東京会場)

■地域発信(自主活動・秀峰祭)

- ・秀峰祭(9月20日(土)21日(日))
- ・体育祭、学術祭について(文化祭と合わせて“3大Fes”と位置付け)
- ・課外活動の結果について(「科学地理オリンピック」、「日本地学オリンピック」での受賞結果ほか)
- ・部活動等と勉学の両立(曜日別活動の棲み分け)
- ・学力強化 DAY(紹介動画の放映)

■財務・運営関係

- ・2024 年度決算の概要報告と 2023 年度と比較
- ・事業活動収支と資金収支報告
- ・学校経営の安定化(学費の値上げ開始と学納金以外の収入増)
- ・減価償却状況と今後の大型修繕に向けた資金準備
- ・第 3 期中期計画における財政的自立に向けた準備

【質疑・応答】なし

2. 第3期中期計画に向けて(目指す方向)

今年度は第2中期計画の最終年度であり、現在、第3期中期計画の作成を進めている。その概要について、校長から説明がなされた。

■財政の強化

2024 年度、定員が80名から105名に増えたことから、学納金の収入増が見込まれる。学校説明会での参加者数も向上している。

■強化項目として掲げている事項

① 組織力

開校して16年目のため、学校としての組織的仕組みがまだ浅い状況。開校時は 1 学年運営の

みのため教職員数も少なく属人的な仕組みでも成立した部分もあったが、定員増をした現在、将来 650 名生徒を受け入れるなど中規模校に移行していく中で、より組織的な対応・仕組みができるよう取り組む。

② 募集広報

定員充足を維持するため、最優先で取り組む。

③ 教職員組織の強化と能力開発

教員の採用に関して、関東でも優秀な教員の確保は困難となっている。本校では採用活動の継続はするものの、現職の教職員の育成に力を注ぐ。人材教育プログラムの導入を計画する。

■生徒の総合的な心のケア支援制度の実践

昨年、PSS 室を立ち上げた。多欠生徒や教室滞在が困難となる生徒は、PSS 室を利用することで登校が実現している。その後、2025 年 4 月の教室復帰率が各学年半数を超え、順調に運用・活用できている。

■認知能力の育成

全ての生徒に情報の価値を判断するための知識、思考力、認知能力を身に付けさせたい。それに加え、数学的思考、情報収集や整理、言語能力、コミュニケーションスキルやプレゼン能力の向上を目指す。今後、宿泊行事は、一人一人が体験によって成長するよう、個々に設定した研究テーマをもとに行事に参加し、レポートにまとめるよう指導していく。将来的には、4年生(高1)までに大学生に匹敵する研究論文作成能力やプレゼン能力を身に付けさせられるよう目標設定していく。

■教育・開発

「国際教養教育」、「DX-S.T.R.E.A.M(サイエンス(スポーツ)、テクノロジー、ロボティクス、エンジニアリング、アートデザイン、マスマティクス)」の2つにグルーピングし、横断学習の提供を計画している。独自のアイデンティティを大切に、各教科間の連携や単元の繋がりを推進し、カリキュラムマネジメントを行う予定。ほか、以下の計画も進めている。

- ・学力保証の数値化による各教科や現場の具体的な教育活動の連携
- ・安心で安全できる学習環境の提供と階層別の学力向上。
- ・国際交流・国際性、多様性のある学校環境づくり
- ・ICT ツールの活用と世界中の学校とのオンライン交流の構築
- ・海外大学等との連携
- ・外国人留学生の受入

3. 2024 年度保護者アンケート報告

同内容で開始して 3 回目となる今回が最も回答者数が多い結果となった。昨年に続き教育目標について、肯定的評価が大変多く、また過去実施の肯定的評価をさらに上回る結果となっ

た。課題としてきた、カウンセリング・不登校への支援の取組について周知したこともあり、数値が大幅改善した。自由記述にある、指摘事項は、真摯に向き合い改善に向け取り組みたい。

4. 質疑と意見、情報交換

6名の評議員による意見交換ならびに、学校側からも回答が述べられた

【主な感想】

- ・ 長野県外からの移住を考えた際、医療・福祉と教育が当該世代にとって気がかりとなるはず。教育においては、松本秀峰が保護者から高い評価を得ているのは肯定的に捉える。
- ・ 現代の若者は SNS 等を通じ玉石混交の情報に接していくことが考えられる。松本秀峰の生徒たちには、ネット情報を鵜呑みにせず、自分が感じ取った刺激や自らの足で稼いだ情報を大切にし、未来につなげていくような教育展開をお願いしたい。
- ・ よりよい学校づくりに向け、全員で努力されていると理解した。
- ・ 中長期的に求められている人材の育成に向けた努力にも敬意を表したい。
- ・ 関東の先進的な中等部の学校事例で「音楽の授業の課題（家で作詞作曲させる）」というものがあり、今回説明された「第3期中期計画における国際教養教育について」の箇所がリンクして見え、長野県にあっても先進性のある松本秀峰の学びに驚いた。
- ・ 月・水・金は部活動、火・木は勉強と曜日で分けて活動をしているが、大学では部活と試験勉強など同時にやらなければならないことが多く、両立の自己管理に苦労しているようだ。そのような力を中高時代から訓練させることも大切ではないかと感じたことがある。
- ・ 生徒の心のケアを大切にしている事を聞いて安心感を得た。子供から一時、教室に来ないクラスメイトがいたと聞いていたが、教室に戻って来るようになったと話してくれた。このような環境や取り組みを大切にして欲しい。
- ・ 日頃から、先生方の授業が楽しく、生徒を大切にされている。と感じている。

【主な要望と意見/それに対する回答】

- ・ 教職員が忙しい印象を受けている。生徒からの刺激をうけて先生方が伸びて行けるよう、教員もしっかり休めるような環境を作っていて欲しい。
→法的に定められたストレスチェックも毎年行っているが、今年は試験的に教員の働きがいをアセスメントする「エンゲージメントサーベイ」も実施した。総合評価60点満点において、全国的には40点あれば良いと言われる中、本校は51点という大変高評価の結果を出した。充実した学校生活と授業、協力し合える関係性が影響していると考えている。課題もあるが、皆が協力することで解決できると感じている。
- ・ 定員増に関して、児童数が減っている現状、また、価値観が多様化する中にあっても、学校法人として経営面を考慮すれば定員増は悲願だと推察する。今後、生徒の多様性も広がると思うが、予想される課題と対策はどう考えているか。

→定員増に伴い、これまで以上に幅広い層の生徒に対応していく必要性が考えられるが、すでに予想している課題であり、習熟度別の授業運営・展開の検討により対応が可能。生徒の成長度合いによって、進捗をコントロールする。その実施に向け、保護者と教員が面談し、ご家庭の方針をよく知った上で支援してきたい。生活指導に関する内規を変え、トラブル対処についてルール化をしてきた。担任が1人ですべて抱え込むことがないよう、チームワークを大切にしていきたい。

- ・ 進学実績について、良く分かった。卒業生が大学卒業後、社会でどのように活躍しているのか知りたい。

→卒業生について、一般企業への就職のほか、特徴的な職業として、医師やパイロットの副操縦士、弁護士など、ほか起業した事例等を承知している。また、大学卒業後、地元に戻って地域の企業や、教員や商工会議所で勤務する事例など、多様な活躍をしている。生徒のキャリア教育の一環で実施している秀峰アカデミア(専門職の方の職業紹介講座)では例年、社会の第一線で活躍する保護者の中から職業に関わる講座の講師をお願いしているが、昨年からOB・OGにも特別講座をしてもらっている。

- ・ 大学進学後は、制服ではなく自ら洋服を選ぶことが通常。主体性やアイデンティティの育成、自ら選ぶ力を磨くためにも、部分的に私服での登校による育成を提案したい。
- ・ 6年間、同じメンバーと過ごせることが秀峰の良さだと思われる。地元では松本秀峰の保護者から声をかけてもらうころがあるなど、アットホームな雰囲気を感じる。このような、松本秀峰らしさの継続も求める。
- ・ 学力強化DAY(火・木)と、部活を行う曜日(月・水・金)を分けたため、委員会活動との両立が難しくなるのではないか。学力強化DAY(火・木)であっても、時間帯によって部活・委員会を認められる柔軟な運用も検討してはどうか。

5. 総括

本会議の総括として、校長より以下述べられた。

本校からの報告に対し、学校評議員(外部評価委員)の皆さまから貴重な意見、要望をいただいた。第3期中期計画にも向け、今後、各課題の改善と、さらに向上していくため以下重点事項として取り組む。

① 生徒募集に関連して

経済の変化によりテレワーク、バーチャル企業は増える見込み。住む場所に拘束されず、信州を移住先や二拠点住居先として捉える方をターゲットとして首都圏入試を発展させる。

② 教育力の向上

本校での6年間を経て、生徒がそれぞれの夢を叶えるためには、一定の学力保証も必要になる。さらに質の高い授業を提供し、学習のバランス、課題に対して工夫を継続していく。